

昭和新山「岡本次郎写真集」には続編があった —昭和23年のモノクロ写真と昭和28年のカラー写真—

岡本 研（北海道支部・東海大学）

The sequels of Shouwa-Shinzan "Jiro Okamoto's Photo collections" was found
-Monochrome photographs in 1948 and color photographs in 1953-
OKAMOTO Kiwamu (Hokkaido Branch, Tokai University)

はじめに

発表者であり本総会実行委員長の岡本研の実父、岡本次郎（北海道教育大学名誉教授）は昨年11月に死去したが、死の数日前に、未公開の古い昭和新山の写真の存在を明かした。古いアルバムにはスライドフィルムの形で、昭和23年撮影の57枚のモノクロ写真と、昭和28年撮影の15枚のカラー写真が保管されていた。

次郎は長らく北海道教育大学旭川校に勤務しており、退職後も旭川市に居住していた。旭川総会を前に、旭川の地で突然この世に現れた貴重な写真群を、ポスター発表として今回公表することにした。

岡本次郎と昭和新山

岡本次郎は、東北大学理学部地質学科で学び、田中館秀三氏（当時東北大学教授：自然地理）、八木健三氏（当時東北大学助教授：岩石学）らの指導を受けている。まだ本格的な調査研究が多くなかった昭和新山の地形を測量して地形図を作成し、Z. OKAMOTO (1949) を発表している。逸話としては、まだ誰も行ったことがない（三松正夫氏ですらも）山頂に、円礫があるかどうかを確認すべく単独で登頂し、研究指導を受けていた北海道大学の石川俊夫教授より、「あなたは人類初の昭和新山登頂者ですね。」と言われたという話がある。

次郎はその後、地理学（土地利用）研究に方向を定め、北海道に来てから昭和新山の研究に関わることはほとんどなかった。

昭和新山「岡本次郎写真集」とは

2002年の地団研北海道総会の際、川村信人・新井田清信・地徳力・岡本研・石井彰洋は特別ポスター発表として、「有珠を愛した男達」を発表した。三松正夫、松浦武四郎、そして岡本次郎の3人が残した絵画や写真を、どの視点から記録したものかを探るという内容であった。発端は2000年頃、次郎が昭和28年撮影の昭和新山の19枚のカラー写真を所有していることを長男の研に明かしたため話題となり、支部会員の間でこれをポスタ

ー発表にしようという話が持ち上がったのである。今回、遺品の中からその“続編”ともいえるべきカラー写真が見つかり、しかもスライドマウントには「1953年7月29日」と書き込まれており、正確な撮影の日付も判明した。

昭和23年のモノクロ写真について

次郎は昭和21年夏より現地調査を開始、昭和23年にかけて研究を行っている。次郎によると、モノクロ写真は、親友の三田亮一氏とともに現地に赴き、測量を行ったときに撮影したものであると証言。写真に三田亮一氏が映っていることからモノクロ写真は主に昭和23年に撮影されたものと断定できる。

なお、三田氏は次郎が測量する間、ポールを持つ担当であったため、時間に余裕があり、スケッチを多数描いていたということである。このスケッチは「麦圃生山」に掲載されている（三田氏は1952年、明神礁の研究調査中に殉職された）。



第1図 昭和23年の昭和新山のサンゴ岩

文献

地徳ほか（2003）：有珠を愛した男たち—武四郎・次郎・愛山の残したもの—。地学教育と科学運動，42

OKAMOTO, ZIRO (1949): MORPHOLOGICAL NOTE ON THE NEW MOUNTAIN, SYOWA-SINZAN, USU VOLCANO, HOKKAIDO, JAPAN. ANNALS OF THE TOHOKU GEOGRAPHICAL ASSOCIATION, 2, NO.1, 20-25.